
第 11 回 町田市交通マスタープラン推進委員会 会議録

開催日時：2012 年 3 月 26 日（月）10:00～12:00

開催場所：町田市役所 森野分庁舎 2 階 会議室

出席者 （敬称略、順不同）

兵藤哲朗、中西賢也（代理：高橋）、小矢島応行（代理：栗田）、伊佐賢一（代理：今宮）、石井和浩、仲手川仁志、近藤和弘（代理：高橋）、佐藤乙依、江村信彦、永山輝彦、窪田洋（代理：篠寄）、樋口孝治、加藤仁、中谷雅彦、加藤弘、石井幸隆、柳澤秀秋、安藤信哉（代理：竹田）、粕谷羊三、山田勝也、遠藤美津子、村田昭夫、佐藤勲

傍聴人 0 人

事務局 浅沼修都市づくり部長、野田好章交通計画担当課長、奥村繁樹担当係長、渡邊健人主査、中島哲郎主事、(株)日本能率協会総合研究所（2 名）

【会議次第】

1. 開会挨拶
 2. 資料確認
 3. 議題
- *****

【議題】

1. 第 7 回物流分科会の報告
 2. 連節バス・ノンステップバスの導入状況及び計画について
 3. 幹線交通ネットワークの検討について
 4. 来年度の予定について
 5. その他
- *****

【資料】

- 資料 1 第 7 回物流分科会の報告
資料 2-1 連節バス導入に伴う工事概要
資料 2-2 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）
資料 3 幹線交通ネットワークの検討について
資料 4 町田市交通マスタープラン推進委員会 運営スケジュール（案）

【議事】

- <開会挨拶>
省略
<資料確認>

省略

<確認事項>

[新任委員について]

(事務局)：要綱の見直しによる委員の追加をお願いしました。町田地区の法人七社会と町田駅タクシー待機運営協議会のお二方に加わっていただきました。以後、会議の進行は委員長をお願いします。

(委員長)：マスタープランの策定から既に6年経ったかという思いがある。いくつか具体化しつつあり、その関係者もだんだん多くなってきているということだと思う。この会議の重要性を感じています。本日の議題は1～4までありますが、一つずつ説明してもらい議論していただきたい。

前はいつ頃実施したであろうか。

(事務局)：前は今年の4月に実施しています。

(委員長)：少々間隔があいていますが、資料説明をお願いします。

<議題>

1. 第7回物流分科会の報告について

[資料説明]

資料1 第7回物流分科会の報告

事務局より説明

[意見等]

(委員長)：荷捌きに関する議題でした。来年度、地元主導による組織を立ち上げ、地元の取組を支援していくという内容でした。また、吉祥寺の先進事例の紹介と東京都の制度を活用していこうという取組の内容でした。ちなみに、東京都の公社の駐車場は町田市には無いということで良いでしょうか。

(事務局)：その通りです。

(A委員)：町田で吉祥寺のような共同集配を考えた場合、ぼっぼ町田を活用することはできるのでしょうか。

(事務局)：現在、共同の荷捌き施設として稼働しています。ただ、共同集配については、整備したときに社会実験もやっています。もともとは町田でも共同集配を考えて整備された施設であるため十分活用可能と考えています。

(委員長)：以前、ぼっぼ町田は既に利用状況が満車という報告もありました。あとは、荷物の量とトラックの台数で足りるかどうか、定量的に検証すれば、使用できるかどうかの判断はできるということだと思います。基本的には、ぼっぼ町田を活用していくという方向ということだと思います。

(B委員)：町田と吉祥寺では事情が全然違います。吉祥寺の場合は、全ての場所に台車で運んでいますが、同じ事を町田でやろうと思うと、あのような施設は5～6箇所は必要になります。もっと違う方向で考えていかないと難しいと考えています。

(委員長)：この意見は、分科会でも出ていました。町田市の方でも吉祥寺と全く同じ方法では難しいと考えていると言っていましたので、すぐに同じ事ができるということはないと思います。た

だ、参考にできるところも多いと思いますので、そのあたりも考慮して進めてもらうようにしてください。

また、これはお願いします。荷捌きの問題は、路外に適切な場所がない町田の場合、路上の活用も考えていかなければならないのですが、そのとき同じ路側の空間を使うタクシーと、共存と言うか棲み分けを考えていくことが重要と考えています。今回からタクシー事業者さんが来てくれています、分科会にも参加頂いた方がよいと思いますが、どうでしょうか。

(C 委員)：その方向で市からも要請を受けているので、協力したいと思っています。

(委員長)：続いて、議題2に行きたい。資料説明をお願いします。

<議題>

2. 連節バス・ノンステップバスの導入状況及び計画について

[意見等]

資料 2-1 連節バス導入に伴う工事概要

資料 2-2 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）

[議題]

(委員長)：前年度までは、バス分科会も行っていました。バスセンターは容量がいっぱいで増便できない。バスの輸送力を確保したいが、台数は減らしたいということであったと思っています。神奈中バスさんの連節バスの導入について国交省と町田市の補助のなかで購入していただいたようですが、後は、走行環境の整備ということでしょうか。

(D 委員)：ノンステップバスの補助金のことですが、町田市を走行している神奈中のバスは、大和市の営業所であると聞いていますが、大和市や神奈川県に補助金申請は出せないのですか。

(E 委員)：大和市を含め周辺市にも申請していますが、実質、町田市から発着する便が多いので大和市としては補助できないとの事でした。

(事務局)：実質的に町田市内を走るバスについては、町田市でやるべきかと考えています。(生活交通改善事業計画「町田市ノンステップバス導入計画」については支障なし)

(A 委員)：連節バスの具体的な効果は、どんなものがあるのですか。通勤通学時間の混雑緩和が目的になっていると思うのですが、いつの時間帯に運行するとか、もう考えているのですか。

(事務局)：現行の急行バスは山崎団地入口バス停、木曾入口バス停に停車しますが、連節バスは境川団地バス停にも停まる予定です。混雑のピークは朝の町田駅方向だけだと考えています。連節バスは普通のバス2台分の容量があるので、バスの台数が削減する効果があると考えています。

(委員長)：以前、岐阜で連節バスに乗ったのですが、急行運行ということもあり、利用者が多く、地域のシンボルにもなっていました。ただ単に便利になると言うより、自動車から公共交通への転換効果も期待できるのではないのでしょうか。

(F 委員)：町田駅から山崎団地までの運行ということですが、土日はもっと混雑しています。また、途中に今年の7月から町田市役所が移ってきますが、そうなる自動車の流れも変わり、混雑も悪化するのではないかと考えています。このような状況のなかでどのくらい定時運行ができるのでしょうか。

(事務局)：市役所の影響は多少あると考えています。そのため、道路を広げるなどの取組を並行して実施しています。当然、それ以上に自動車が集中すれば混雑すると考えています。連節バスが

通る駅前通りのみならず、町田市民ホール交差点から町田街道に抜ける道路を一方通行から相互交通にします。これによって複合的に混雑緩和をしていくことによって、渋滞の解消に対応していこうとしています。

(委員長)：連節バスはいつ頃から運行できそうな見込みですか。

(事務局)：協議中ということもありますが、できる限り早くしたいと思っておりますが、現状では明言はできない状況です。

(委員長)：他に意見はありませんか。意見がないようなので議題3の説明をしてください。

<議題>

3. 幹線交通ネットワークの検討について

[資料説明]

資料3 幹線交通ネットワークの検討について

[意見等]

(委員長)：この事業はこれまでの検討にも無かった事業ですが、唐突感があり、位置づけがよく分からない。だれが調査・分析をやることになるのでしょうか。

(事務局)：このあとのスケジュールにも関係する事なのですが、来年度から町田市で実施したいと考えています。未来づくりプロジェクトのなかで町田市全体の拠点が15箇所としています。これらの拠点を結ぶ幹線ネットワークについて、この協議会等で議論をしていきたいと思っています。

(委員長)：この交通マスタープラン推進委員会でやっていくと言うことですね。調査としては、ネットワークの評価を定量的にやっていきたいということなののでしょうか。

(A委員)：町田市は、小田急線の北側と南側の交通が分断されてます。北部のネットワークや検討の必要性は良いのですが、南側のネットワークが想定されていないのではないかと思います。南側の人が市民病院に行くためにはバスを乗り継がなければ行けないので、お金がかかるなどの問題もあります。うまく改善する方法はないのでしょうか。

(委員長)：同じバス会社間ならできそうですが、神奈中さんで乗り継ぎ割引みたいなのはないのでしょうか。

(E委員)：具体的には、定期券利用者については乗り継ぎ割引しています。他には、路線の再編を行った際に、それまでの利用者に対して一部割引を導入したことはあります。湘南台駅と慶応大学の間で基幹路線と支線路線のバスの間で乗り継ぎ割引を実施しています。単純にいうとバス会社にとっては減収となる仕組みのため、実施するには採算性の検討は必要ですが、全くできない取組ではありません。

(委員長)：これからですが、うまく推進協議会のなかでサポートできる議論ができると良いですね。他に無ければ、議題4の説明をお願いします。

<議題>

4. 来年度の予定について

[資料説明]

資料4 町田市交通マスタープラン推進委員会 運営スケジュール (案)

[意見等]

(委員長)：来年度は庁舎の移転や連節バスの運行などもあり、節目の年になるような感じがします。

(D 委員)：路線バス分科会はどうするのか。もうやらなくて良いて感じなんですか。

(事務局)：会自体は存続はしていますが、事業にシフトしているのでしばらくやっていないという状況です。

(D 委員)：では、バス分科会とやると言うことですね。

(G 委員)：連節バスの運行開始時期はいつになるのですか。

(事務局)：まだ、明言できない状況です。ただ、来年度中の早い時期に実施したいと思っています。

(委員長)：工事中や調整中ということで確定できないが、市としては、来年度に実施したいということのようです。

(事務局)：現在、警視庁、神奈中さんと協議しており、安全上の最終確認を行っている段階です。

連節バスの分科会は目的を少し変えて、幹線支線バスの検討を行いたいと思っています。連節バスと混乱を招くかもしれませんが、バス関連は統合してひとつの分科会で実施していきたいと考えています。

(委員長)：連節バスの運行によりネットワークが大きく変わるということと考えています。

(D 委員)：連節バスの分科会は1回限りでよいか。

(事務局)：未来プロジェクトでは、12箇所の団地の再編も入っています。そことのつながりで考えていきたいと考えています。連節バスの停留所の位置づけや小田急線の延伸、多摩都市モノレールの延伸も含めて、ネットワークの検討をしていきたいと思っています。

(H 委員)：資料4と来年度の検討内容に関連して要望したい。町田市は鉄道よりバスに頼らなければならない社会。未来プロジェクトで15拠点としたとあるが、地域々によって公共交通への期待も違うんじゃないかと思っている。都市マスは地域によってちがうと思っているからワークショップなどを行って、地域の意見も取り込んできていますよね。高齢化の進捗度合いや坂が多い地区だとかで、公共交通の必要性も違っていると思うんです。玉川学園地区のコミュニティバスもようやく落ち着いた段階ですが、地域を巻き込んで住民が参画するバスというものをもっと手助けするというにはできないのでしょうか。

(委員長)：6年前に策定したマスタープランをどう推進していくのかとも関係すると思います。見直しをする場合は、だれを重視していくかも重要となってくると思います。

(事務局)：幹線バスはようやく運行できる目処が立ったと考えています。市民参加は視点としては重要と考えています。市民も含めてもっと考えていきたいと思っています。

(委員長)：そのほか、何かありませんか。

5. その他

(事務局)：最後に来年度の体制について報告したい。これまで都市計画課が中心となって推進してきましたが、都市計画課が3つの課に分離して、その中の交通事業推進課が担当していくこととなります。

来年度もよろしく申し上げます。